



TITLE:

ブイスコースに関する研究(第22報)
:ブイスコースの比粘度に就て:
(Ⅰ)ブイスコース熟成中粘度變化
の型式

AUTHOR(S):

喜多, 源逸; 岩崎, 振一郎; 増田, 周三; 松山, 紀陽作

CITATION:

喜多, 源逸 ...[et al]. ブイスコースに関する研究(第22報):ブイスコースの比粘度に就て:(Ⅰ)ブイスコース熟成中粘度變化の型式. 化学研究所學術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74496>

RIGHT:

中、低粘度)、Bayer製 佛製、内地製、Cellit (高、中、低) 及び自製品を用ひたり
糸の性質は紡糸の諸種狀件により又其相違は著明ならざるも一般に粘性大なる醋酸
纖維素より強力なる糸を生ず

醋酸纖維素の粘性の相違は皮膜の強力の大小に明瞭に現はる

自製品は粘度高く普通商品にては 20—25% 溶液を紡糸に用ひたるも自製品にては
15—18%を適當させり 20—25%溶液として紡糸せんが爲粘度の低きものを添加した
るに糸の強力には好影響を與へず却て損したり 樹脂を添加するも結果不良なりき

グイスコースに關する研究 (第22報)

グイスコースの比粘度に就て

(I) グイスコース熟成中粘度變化の型式

喜 多 源 逸 岩 崎 振 一 郎 増 田 周 三

松 山 紀 陽 作

(纖維素工業 昭和四年 第五卷 59頁)

熟成中グイスコースの粘度に就ては已に諸家の測定あり今日一般には粘度は熟成初
期數日間減少し最低に達したる後徐々に再び上昇し凝固の直前急に上昇するを考へら
るゝが如し 然るに著者實驗室に於ける從來多數の試験結果によれば凝固前の急激上
昇を除きては大體熟成中緩慢なる上昇を認めず 然るに鋼球落下時間による測定結果
によれば余等も亦一般に認めらるゝ如き變化を觀察せり 故に此等の差異の原因を明
かにせんが爲諸種纖維素材料を撰びグイスコースを作り諸種測定法により變化の型式
を調査せり

其結果球落下時間の測定によれば何れも同様の型式により變化するも稀釋グイス
コースを用ひオストワルド粘度計にて測定する時は纖維素材料の相違により異なる型式
を取る事を明にせり 又伸糸能力を比較したるに大體球落下法による粘度値と類似な

ることを認たり

余等の測定結果よりヴィスコースの熟成中粘度變化は二つの相反對せる作用即ち分散作用及組織形成の兩作用の結果によるものと考らる 稀釋する場合は組織破壊せらるゝを以てオストワルド法によると球落下法と一致せざる結果を與ふものなる可し

(II) ヴィスコースの流出速度

中 島 正

富久氏の測定せるオストワルド粘度計を用ひ比較的廣き壓力の範圍にて測定せる結果並に本實驗室より發表せし諸種壓力下にて紡糸せる糸の太さの測定結果を計算し略 Wo. Ostwald 氏 式に従ふことを認めたり

人絹強度増進の一方法

喜 多 源 逸

化學研究所講演集昭和四年第一輯63

本報告には人絹紡糸の際 Strecken 以外に Reibung が強度増進に有利なる事及びヴィスコース熟成の程度により Reibung を増加し得る程度に差異あるを述ぶ。

蛹油不飽和脂肪酸の成分に就て

木 村 和 三 郎

(工業化學雜誌 1927, 30, 857, 京都大學工學部紀要 1929, 5, 165,)

蛹油の成分に就ては既に辻本滿丸氏 (J. Coll. Eng., Tokyo, Imp. Univ., 1908 vol. 4, No. 2) 川瀬惣次郎氏等 (日本化學會誌, 1925, 42, 181) 等の研究あれど不飽